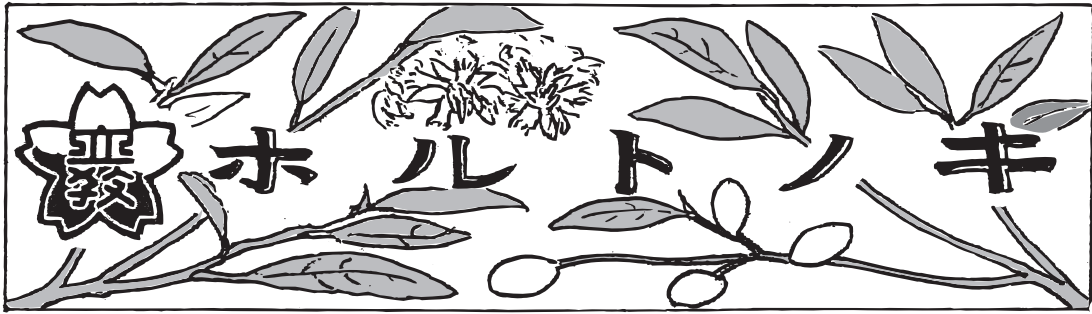




紫陽花に迎えられての入学式

入学おめでとう

本年度は、新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的流行を受け、本校でも当初四月に予定されていた入学式が大幅に延期、六月に挙行されました。臨時休校中は、オンライン授業ないしは動画配信により、学校としても手探りで学習活動が展開されました。ソメイヨシノの代わりにアジサイ

に見守られての入学式は、雨にこそ見舞われたものの、活気あふれる新入生の笑顔が集いました。式自体も高一（六月十三日）、中一（六月十四日）ともにセントニアルホールで組別時間帯を設けての実施となりました。式では見送りと併せて掲載いたします。

中学校

歓迎のことば

在校生総代 服部 優成

新入生の皆さん、本日は立教池袋中学校への御入学おめでとうございます。

また、今日まで心を尽くしご子息の成長を支え応援して来られた保護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。

私が小学校の制服を脱ぎ、立教池袋中学の制服に袖を通した二年前、エンブレムを胸に、なんとも言えない誇らしさで胸いっぱいになったことを覚えています。それはいまだに変わることなく日々感じ、立教生であるという愛校心と、私の自信につながっています。

立教は生徒の自主性を重んじる、歴史と伝統あるキリスト教の学校です。他者を尊重し、自己を生かしていくという真の紳士教育の下、中学高校六年間、あるいは大学までの一貫連携教育の中で自分の目標を探求し、部活動にも本気で取り組み、青春期・青年期を仲間と共に豊かに過ごせる環境があります。

皆さんの中には海外で学んできた人・受験をくぐり抜けてきた人・立教小学校から進学した人・様々な特色を持った人がいます。

はじめは皆さんの中にとまどいがあるかも知れませんが、互いに向かい合うことにより肩を並べ友と歩みを揃える気持ちを大事にして欲しいと思います。互いに尊敬し合う魅力があり、中学という未知の世界での初めての体験や経験を共にしていく中で、無意味な壁はすぐになくなるでしょう。日々の生活には呼吸のように祈りが溶け込んでいます。手を合わせ祈ることも

自然に身につけていくので安心してください。

私がいつも目標としていたことは、乗り越える壁に出会った時その壁を乗り越えるのではなく、壁を押し倒し自分の道として踏みしめ一歩一歩前進していく、ということです。

皆さんも、これから沢山の壁にぶつかるとは思います。龍のように勢いよく天に昇り勇み立ち、一歩一歩前進し努力する楽しさを学んでいってほしいと思います。

失敗は自分の力で立ち上がった後の多くの学びと大きな成長につながります。立ち止まってしまった時は、温かく見守っている担任の先生、頼もしい先輩方に、臆することなく話してみてください。

保護者の方々をはじめ、先生方、先輩の私たちも皆さんと同じ経験をし、歩んでいる人生です。共感し、歩み寄り、背中を押してくれることを信じてもらえたら嬉しいと思います。

立教は知れば知るほど奥深く温かな素晴らしい学校です。今日から立教生なのだという誇りを持ち、皆さん一人一人が情熱を注ぎ活躍できる「何か」を見つけ、充実した日々を過ごすことが出来るはずです。

これから始まる皆さんの学校生活が実り豊かなものとなりますよう、在校生一同、心から応援し、歓迎の言葉とさせていただきます。本日は御入学おめでとうございます。

入学のことば

新入生総代 久保 壮太郎

本日、立教池袋中学校に入学することができました。ことに感謝いたします。また、新型コロナウイルス感染症の影響で世界中が深刻な状況にある中、このような式が開催されることを非常に嬉しく思います。準備をはじめ、先生方に深く感謝申し上げます。

私たちは、様々な小学校から一人ひとり違う経験を積んでここに集まりました。そのような経験をもとに、私たちは仲間と助け合いながら、中学校で新しい世界を広げて歩んでいきたいと思っています。

中学校では、小学校と比べて自分の意見を発表する場面がたくさん出てくるはずです。そのような時に、自分の考えだけではなく、「他の人は違う考えを持つているかもしれない」と、自分と異なる意見を聞くこととする姿勢が大切だと思います。

他人の意見を尊重し、時には柔軟に対応し、協力的な姿勢を持つということが、これから始まる中学校生活の貴重な時間を仲間と共に過ごすことにつながります。

中学校では、クラブ活動など自分の興味に合わせて活動することが多くなるといことも聞きました。自分の熱中できること、自分にとって大切なこと、人の役に立てることなど自分の目標を見つけて、それに向かってエネルギーを注ぐ時間が私たちの中学校生活だと考えています。いただいた貴重な三年間を私たちにとって有意義な時間にしていきたいです。

新型コロナウイルス感染症により、この先はまだ混乱が続くかもしれません。しかし、私たちは中学校生活を始めるための準備の時間をいただいたと捉え、これから始まる中学校生活に思いを馳せて、自己を高めるために前に進んで行こうと思います。

本日ここに私たちは、集まることができました。これまで支えてくれた先生方、仲間そして家族のおかげです。深く感謝いたします。天の父なる神さま、私たちの与えられた中学校生活の貴重な時間を仲間と共に、大切に過ごすことができますようお導きください。



高等学校

歓迎のことば

在校生総代 富山 智久

新入生の皆様、並びにご家族の皆様、本日はご入学おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝いを申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、今までの日常からは想像できないようなことが日々起こり、多くの人が戸惑いを感じています。このような状況の中で、皆様とともにこの日を迎えられることを、大変嬉しく思っています。

本校から、新入生の皆様は立教池袋高校の一員として、新たな生活をスタートさせることとなります。先が予想できない中で始まるこの日から、夢や希望を抱き、胸を躍らせていると同時に、勉強の難しさや、周囲の環境の変化に不安や悩みを感じている人も少なくないでしょう。しかし、多くの先生や友人と出会い、支えや励ましを受けながら、時間とともにそのような不安や悩みは、薄れていくと思います。一つひとつの出会いを大切にしながら、ともに支え合い、充実した毎日を過ごしてください。

皆様は、これから、中学生の時よりも多くの自由を手に入れることができます。しかし、それと同時に、その自由を守り続ける責任を負い、自分自身で物事を判断し、行動しなくてはならないということも忘れてはいけません。与えられた自由を守り、最大限に活用しながら、様々なことを学び、多くのことにチャレンジし、日々の勉強や部活動、文化祭をはじめとする学校行事など、様々なことが皆様にとってかけがえのない思い出になります。私たちは、高校一年生の

入学のことば

新入生総代 栗原 健太

本日は、私たち新入生のためにこのような式を挙げていただき、誠にありがとうございます。私たちが一四七名は立教池袋高校の生徒としての誇りとこれからの学校生活への希望を胸にこの日を迎えました。

中学校生活はとても充実したものとなりましたが、特に自分を成長させてくれたのは「仲間の力」です。私は中学の三年間水泳部に所属し、日々練習に打ち込みました。水泳はあくまで一人泳ぐものであり、個人的な結果やタイムを左右するのは自分の実力です。しかしその実力をつけるまでのどの場面にも、信頼できる仲間の存在は必要不可欠だと感じました。中学の三年間、私は自己ベストがなかなか出せず、苦勞してきました。そんな時に大きな心の支えになったのはクラス

の仲間、私の存在でした。特に中学三年生としての一年間はクラスメイトに様々な部で活躍するキャプテンや部長が多く、そうした仲間たちと切磋琢磨することが、自分にとっての成長のきっかけとなりました。仲間の存在が「また、今日から頑張ろう。」と私を奮い立たせてくれたのです。

こうした経験から私の心の中に、新たな気持ちが生じました。それは「こうして支えてくれる仲間のために」という結果を残したい。「一歳から始まった私の水泳人生の中でも感じたことのないものでした。私はこれまで水泳は孤独に戦うものだと思い、「自分の夢のため」「今までの努力を

無駄にしないため」に泳いできました。もちろん、自分のために頑張ることも大切なことです。しかしそれだけでは、立ち止まってしまったとき、そこからはい上がるエネルギーが足りません。支えてくれる仲間がいるからこそ、もう一度前に進むことができるのです。そのことに気づいた私は「一人じゃない」と自信をもってスタート台に立てるようになり、中学生としての最後の大会で一年ぶりに0.12秒、自己ベストを更新することができました。他の人からしてみれば、ほんのわずかな差かもしれませんが、私にとっては、これまでに0.12秒は、これまでの努力と、そして何よりそれを後押ししてくれた仲間の存在がなければ掴めなかった大切な記録なのです。

私はこの仲間たちがくれた、記録や経験という名の宝物をこれから高校生活、そして競技生活に絶対につなげていこうと決意し、日々邁進してきました。しかしその矢先に襲いかかってきたのは、今もお私たちを苦しめる新型コロナウイルスです。学校は突然休校になり、部活も合宿もインターハイも何もかもが中止になってしまいました。今まで当たり前のように泳ぐことができていた環境が一瞬にして小さなウイルスによって奪われたのです。私は、泳ぎたくても泳げないという状況にいらだちとどこかしさを感じていました。しかし、それと同時に「工夫して生きる」ということの大切さを学ぶことができました。高校生となった今、私たちに「自立」ということが求められます。この「自立」という



言葉は確かに「物事を自力で行えるようになる」という意味を持ちますが、「すべてを一人で抱え込む」ということはイコールの関係にならないのではないのでしょうか。「周りの人たちの支えを受け、それを自分の力に変えていく」ということが私たちに求められる「自立」であると私は考えます。ウイルスによって思うように練習ができなかったこの期間に私はこれまで学んできた様々なことを思い返し、当たり前は当たり前に、前々ないんだということに強く自分に言い聞かせながら、今の自分にできるあらゆる努力をして、よりパワーアップした人間になろうと決意しました。逆風を追い風に変え、今をどう生きるかで、高校生になった私たちの未来は大きく変わっていくと思います。そしてそれこそが「自立」への第一歩になるのではないのでしょうか。

